

平成29年度 学校自己評価 学校関係者評価

兵庫県立神戸北高等学校

1 学校経営の重点

- (1) 授業第一主義と確かな学力の定着
 - ア 確かな学力を培う「魅力ある授業」を創造する。
 - イ 予習・授業・復習の学習サイクルを定着させる。
 - ウ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育成する。
- (2) 福祉ボランティア類型の一層の充実
 - ア 幼児・児童・生徒・高齢者との多世代交流をすすめ、コミュニケーション力を育む。
 - イ 地域に根ざした高校として、地域との協働による取り組みをさらに進める。
 - ウ 高大連携の取り組みをすすめ、進路意識の醸成を図る。
- (3) 生徒の自主・自律・共生の育成
 - ア 生活習慣を正し、校外における挨拶を含めたマナー指導を徹底させることで、高校生としての姿を確立させる。
 - イ 学業と部活動を両立させ、バランスのとれた高校生活を過ごさせる。
 - ウ 人権教育の充実を図り、ともに生きる心を育む。
- (4) 安心して過ごせる学校づくり
 - ア 家庭・地域・関係機関との連携を図り、生徒を見守る体制を構築する。
 - イ 安全教育・防災教育を徹底し、危機管理意識を醸成する。
 - ウ 校内美化を進めるとともに、施設・設備を大切に使うことを心がけさせる。
- (5) 開かれた学校づくり
 - ア 地域の人的・物的資源を活用するとともに、地域に開かれた学校づくりを進める。
 - イ 保・幼・小・中・自治会と連携し、地域の拠点として合同防災訓練を主催する。
 - ウ 学校関係者評価を活用し、学校の活性化につなげる。
- (6) 活力ある組織と明るく爽やかな職場づくり
 - ア 生徒を中心に据え、情報の共有化をすすめる。
 - イ 服務規律を確保するとともに、教職員の資質・能力の向上を図る。
 - ウ 勤務時間の適正化により、生き生きと働ける職場をめざす。

2 学校自己評価について

12月に実施した自己評価アンケートの結果を以下に示している。それぞれの項目について、「よくできた」…4点、「まあまあできた」…3点、「あまりできなかった」…2点、「できなかった」…1点、「わからない」…除外として集計し、平均3点以上を「A」、3点未満を「B」としている。

今年度は、当該の分掌（部・学年）に所属している教員による評価と、所属していない教員との評価を分けて集計した。

自己評価結果を受けて、今年度の振り返りと来年度への改善点を検討したものが表下欄である。

<総務部>

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.6	A	3.0	A	3.6	A	日常の清掃活動やゴミの分別を徹底させ、校内美化を図る。	管理委員によるゴミステーションの分別確認、学年や顧問と連携しての注意喚起を行う。
3.1	A	2.5	B	3.1	A	管理・緑化委員会活動を活性化させる。	管理・緑化委員会を積極的に実施させる。生徒が主体となり、活発に活動できるようにする。
3.5	A	3.0	A	3.5	A	安全・防災教育の充実をはかる。	地域防災教育活動をさらに充実させ、震災行事等を通して防災への関心を一層高める。
3.2	A	2.7	B	3.2	A	学校ホームページの充実と「北高だより」の発行で本校をアピールする。	学年や部と連携し学校ホームページの更新をこまめに行う。広報誌の内容の工夫、充実を図る。
3.5	A	3.3	A	3.5	A	特色選抜学校説明会やオープンハイスクールで魅力ある学校紹介ができる工夫をする。	各教科の協力のもと、内容を再検討するとともに、生徒を前面に出して運営する。
<p><今年度の振り返りおよび来年度への改善点></p> <p>今年度は、昨年度から引き続き、校内美化に努めた。特に今年度は見えないところまで美化していくという目標で行なったが、分掌外からの評価も高く、良かったのではないかと感じる。また、オープンハイスクールでは新しく部活動紹介ビデオを制作したが、アンケートなどで好評を得たのが良かった。</p> <p>分掌内での評価が低い、管理委員、緑化委員の積極的な活動や、北高だよりの発行は例年通りに終始してしまい、特に何も打ち出せなかったのが反省点として大きいと思う。</p>							

<教務図書部>

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.3	A	3.0	A	3.3	A	授業規律を確保し、生徒の学習意欲や興味・関心を喚起する指導の工夫、指導技術の向上を図る。	全ての教科において、研究授業による教員相互の評価や生徒による授業評価をととして、指導の工夫や指導技術の向上を図る。
3.4	A	3.8	A	3.4	A	本校生徒の進路実現を図るべく類型や教育課程を検討する。	各生徒の進路実現が可能となるよう柔軟な教育課程を設定する。
3.7	A	3.8	A	3.7	A	学校教育活動の公開に努める。	公開授業週間を設定する。
3.4	A	3.3	A	3.4	A	図書館の活性化を図る。	図書委員による図書館運営を中心に、授業等での活用をさらに増やすべく、教員間で連携しつつ図書の整備や図書室の環境整備に努める。

<今年度の振り返りおよび来年度への改善点>

授業規律の面では、大きな問題なく授業が実施できるようになっている。今後は、次のステップである生徒の取り組み状況や学習姿勢の改善に目を向けていきたい。教員側の努力は言うまでもないが、学年とも協力しながら、生徒の向上心を常に維持していく取り組みも不可欠となろう。

図書館については、新規購入図書や図書だよりをととした生徒への広報活動もあつてか、自習室としてだけでなく、本の閲覧や調査の場所として図書館が機能しつつある。今後は、さらに図書館運営を活発にするため、生徒の声に耳を傾けたり、授業での利用について教員に働きかけたい。

<生徒指導部>

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.3	A	3.0	A	3.4	A	北高プライドを持ち、北高生としての自信と誇りを持ち、基本的な生活習慣を確立させるとともに、普段から自然に周りへの気遣いができ、日常の小さなことでもおろそかにしない心を育てる。	北高生としてプライドを持ち、北高の伝統を自ら作るという高い意識を持つ心を養う。日常的な遅刻指導、服装、身だしなみ指導を行うとともに各種学校行事、生徒会活動の中で何事にも真心を持って自然と接し実践することができるような指導を行う。
3.5	A	3.5	A	3.5	A	ボランティアの意識を高め、将来の仕事や人格形成に役立つように様々な活動への参加を促す。	街頭での募金活動や小学校・幼稚園のプール指導補助など、学校行事で生徒が子どもや地域の人達と接する機会を作り体験することでボランティア意識を養う。
3.5	A	3.5	A	3.5	A	地域の人々との交流を図り、地域にある学校としてのアイデンティティを確立していく。	地元地域の活動である里山づくりに参加し、地域と共に教育環境作りを進める。また地域青少協や小・中学校と協力して地域音楽祭や、凧揚げ大会や餅つき行事等を開催することで地域住民(幼・保・小・中学生)とふれあう機会を作る。

<今年度の振り返りおよび来年度への改善点>

本年度は、「北高プライドを持ち、北高の伝統を作る」という目標のもと、生徒指導、あいさつ運動や里山づくり、生徒会活動を行ってきた。本年度の指導件数は2月15日現在6件と過去30年を振り返っても、指導件数1桁の年は無く、神戸北高校の歴史を作ったといえるのではないかと考えている。

今後の課題は、遅刻、欠席者の更なる減少と、学習意欲の向上を目指して指導していく必要があると考える。

<進路指導部>

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.3	A	3.8	A	3.2	A	各学年と連携を図りながら、生徒が自己の将来と向き合う姿勢を育て、学習の意欲の向上につなげる。	進路ガイダンスや大学見学会等を行うことにより、生徒の進路に対する意識向上を図り、学習の意欲向上につなげる。
3.1	A	2.5	B	3.2	A	職業体験活動やふれあい看護体験を通じ、働くことに対する意識の深化を図る。	就職希望者や看護大学・専門学校進学希望者を対象に会社見学や就業体験活動を実施する。
2.9	B	3.5	A	2.9	B	進路に関する情報を職員間で共有できるようにする。	入試動向における情報を共有し、生徒の進学指導に活用する。
<p><今年度の振り返りおよび来年度への改善点></p> <p>各学年の進路計画のもと、進路ガイダンスが行われ、生徒の進路意識や学習意欲の向上につながる取り組みになったことがA評価につながったと思われるが、次年度は、さらに進路指導部が学年と連携をはかって取り組んでいきたい。</p> <p>看護系進学希望者にふれあい看護体験、3年の就職希望者に会社見学、2年の就職希望者に学年の協力もあり職業人インタビューを行うことができたが、次年度は2年就職希望者対象に就業体験を実施していきたい。</p> <p>3年の学年団と進路検討会を2回実施できたが、次年度は進路と学年、他学年どうしの情報共有をはかるべく、部会を定期的に開催したい。</p>							

<保健部>

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.3	A	3.5	A	3.2	A	教育相談の充実、有効利用	学年と連絡を密にしながら相談が必要な生徒を早く発見する。
2.7	B	2.5	B	2.7	B	安全な環境作り	学期ごとに安全点検を実施し、危険箇所の発見、改善に努める。
2.9	B	3.5	A	2.9	B	保健委員会の積極活用	保健委員に健康に関する問題を考えさせ、アンケートを作成させ、結果を分析させる。全校生徒に対して知らせて、自分たちの生活を改善する契機とさせる。
3.3	A	2.5	B	3.4	A	健診の有効利用	健診結果をもとに、要受診生徒の保護者に受診勧告書を出し、生徒の受診を促す。
<p><今年度の振り返りおよび来年度への改善点></p> <p>教育相談は年間27回。生徒相談数はのべ21回、保護者相談数はのべ12回あり、効果があった。生徒とのコミュニケーション・スキルを高める職員研修も2回実施。</p> <p>来年度は生徒保健委員会が「高校生活の保健に関するアンケート」を行い、健康実態を分析。研修、生徒実態分析等を活かし、保健指導を改善する。</p>							

<第1学年>

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.2	A	3.2	A	3.2	A	指導方針の共通理解を図り、生徒情報の共有を常に心掛ける	学年会はもとより、日頃からも生徒情報の共有に努め、指導は学年団全体で当たる。
3.1	A	3.0	A	3.1	A	規則正しい生活習慣を確立させる	手帳を活用し、連絡事項や日々の予定を記入させることで、学校生活・家庭学習を充実させる。
3.4	A	3.4	A	3.4	A	基礎学力を定着させる	週末課題(国・数・英)に取り組みせ、併せて小テストも実施。理解不足の生徒には課題学習による手当てをおこなう。
3.0	A	2.5	B	3.1	A	ボランティア活動等に積極的に参加するとともに、活動を通じて地域との交流を図る	地域貢献活動、ワークキャンプや小学校のサマースクール等への生徒の積極的な参加を促す。
3.4	A	3.6	A	3.3	A	保護者との連携を図る	学年通信を定期的に発行することで、学年団の方針や学校・学年の取り組みを紹介する。適宜、学校・家庭における生徒の情報交換に努め、保護者懇談会においても丁寧な取り組みの説明に努める。

<今年度の振り返りおよび来年度への改善点>

分掌内外の評価を見れば、学年団の取り組みは概ね良好である。一方、その評価点に差がついている項目もある。中でも「保護者との連携」については0.3ポイントの開きがあり、分掌外から見れば、学年団が考えるレベルに達していない。我々と保護者とのやりとりが双方向かつ緊密に出来ていたか、再点検する必要がある。

また「ボランティア活動等」については唯一「B」評価である。生徒の活動の実態を生徒・職員だけでなく、保護者をはじめ地域の方々にも、わかりやすく発信できていたか、その伝え方も工夫していく必要がある。重点項目の多くが3.5ポイント以内にとどまっていることから、来年度は、学年団の取り組みを全体的に底上げし、「基礎学力の定着」といった評価の高い項目の伸長を目指したい。そして、学年団、生徒、保護者で今以上に確かな関係を築いていきたい。

<第2学年>

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.3	A	3.4	A	3.2	A	個々の進路希望・能力に応じた学力向上を目指す。	週末課題、朝学の実施、考査前の学力補充を行う。進学希望者には、補習を行い上位層のさらなる学力と意識の向上を図る。また、個々に応じた学習をさせるためにスタディーサブリを活用させる。
3.4	A	3.5	A	3.3	A	ボランティア活動やワークキャンプ、インターンシップ等への積極的参加を促す。	福祉ボランティア類型の医療看護の生徒にはふれあい看護体験、保育・介護の生徒にはワークキャンプ、スポーツの生徒にはプール補助のボランティアに参加させ、体験学習を積極的に取り入れる。就職希望者にはガイダンス等を行い、勤労の精神と進路に対する意識を高める。
3.5	A	3.6	A	3.5	A	学校行事を通して自主性を育てる。	文化祭や体育大会、修学旅行などの学校行事をとおして、各委員や代議員などを中心に、生徒の手で行事を運営し、充実させようとする姿勢を育てる。
3.3	A	3.4	A	3.3	A	保護者との連携を密にする	昨年に引き続き、定期的に発行を行い、行事予定や注意事項、その時々々の学年の様子などを保護者に発信する。また、ことあるごとに連絡をとる。
3.5	A	3.9	A	3.4	A	学年団で生徒状況の共通理解を図る。	各担当が抱えている問題を学年で共通理解をはかり、全員で対処することにより、活力ある組織として機能することを目指す。必要に応じて教育相談を利用し、専門家の意見を参考にする。

<今年度の振り返りおよび来年度への改善点>

分掌内の評価をみると、どの事項についても分掌外よりも高い評価となっている。学年団として「生徒を少しでも良くしたい」という気持ちが強く、各係がうまく連携、共通理解、協力して組織的に取り組んでいる。主観の評価に耐えうる態度や言動、マナー、ルールの遵守等生徒にも浸透してきており次年度の個々の進路の実現に向けて良い芽が出てきている。

一方で進路に対応できるだけの学力の定着については不足している部分が多く、学年として色々と仕掛けを考えていく必要がある。

<第3学年>

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
3.2	A	3.3	A	3.1	A	生徒の適性と進路希望を把握し、進路実現のための効果的な働きかけを行う。	生徒の進路希望と適性を的確に把握するために二者面談や三者面談を充実させ、普段から生徒・保護者との意思の疎通に心がける。また、職員が外部の説明会等に積極的に参加するなど、最新の入試動向について理解を深めることで、生徒に適切な助言ができるようにする。
2.7	B	2.7	B	2.7	B	生徒の進路実現に必要な諸要素(学力・生活態度・マナー・根気など)を向上させる。	それぞれの進路実現のために必要な能力を身につけることを意識させ、その修得に向けて、学校生活のあらゆる場面において、生徒の意識改革を図る。
3.0	A	3.3	A	2.9	B	進路実現に向け、生徒自身が自主的に考え、行動する姿勢を養う。	志望する大学・短大・専門学校オープンキャンパスに積極的に参加することで、自己の進路について深く考えるように促す。就職希望の者には、社会人になることを意識させる。
2.8	B	2.6	B	2.9	B	保護者と連携を密にし、学校と保護者が一丸となり、生徒一人ひとりを支援する体制を作る。	学年通信を月1回発行するとともに、保護者向けの進路・就職説明会を実施することで、学校からの情報発信を続ける。
3.1	A	3.3	A	3.1	A	職員間で連携を取りながら、学年の生徒を学年全体で育てる意識を持つ。	生徒の様子や進路希望について、職員間で積極的に情報交換を行い、学年全体でサポートする。

<今年度の振り返りおよび来年度への改善点>

分掌内外の評価を見ても分かるように、全体的に課題の残る年度となった。学力のみならず生活態度やマナーなども進路実現に重要な要素であると考え指導してきたが、場当たりの対応に終始し、生徒の意識そのものを改善するまでには至らなかった。頭髪や服装指導に加え、毎朝のSHRや学年集会などで生徒の意識そのものを養える取り組みが少なかったことが反省点である。

また、学力の定着についても、進学者を対象とした放課後や夏季・冬季での補習を精力的に実施してきたが、参加については生徒の自主性を重んじた結果、参加人数が想定していたよりも少なかったため、この点についても、必要な生徒には半強制的に出席させるなど、やらなければならないという意識をより引き出し、家庭に帰った後も、自らの力で学習に向き合うことのできる力を養成する必要があった。

保護者との連携については、日ごろから事細かに電話連絡や面談を実施し、意思の疎通を図ってきたが、夏休みだけでなく、必要な者には冬休みにも進路に関する三者面談を実施するなど、もう少し保護者の意見を聞く機会を設けるべきであった。

<勤務時間の適正化新対策プラン指定に関して>

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
2.6	B	/	/	/	/	勤務時間の適正化について	従事時間申告書の提出徹底、定時退勤日、年休10日間取得を促進するとともに、会議の精選化を図る。

<今年度の振り返りおよび来年度への改善点>

全職員からの評価は2.6と、今年度も不十分な評価となった。

今年度は「自己のタイムマネジメントの確立」をスローガンとして、従事時間申告書の全員提出、My定時退勤日の設定に取り組んだ。従事時間申告書は全員提出を実現することができたが、My定時退勤日の取り組みは十分とはいえない。意識して早く帰る日を作り出すことが肝要と思われるが、その前提となる業務の簡素化、効率化に引き続き取り組んでいきたい。

なお、今年度は生徒最終下校時刻の徹底を図ることができた。メリハリのある勤務形態の確立に向け、大きな前進ということができる。

3 学校関係者評価について

2月21日に開催した学校評議員会（兼 学校関係者評価委員会）において、学校関係者評価を行った。主な意見を以下に示す。

なお、学校評議員（学校関係者評価委員）の構成は、大学准教授、企業役員、自治会役員、青少協役員、PTA役員、中学校長である。

- ・「北高プライド」のような形で自信を持つことは良いことだ。ほめることが大切である。
- ・受診勧告への反応が鈍いのは、経済的なこともあるのではないか。かかる費用の見通しを示すことができればいくらか改善するのではないか。
- ・新しい入試制度では、思考力や判断力を伸ばすことが必要だが、図書館の取り組みが重要になってくると思う。
- ・学力面では、上位層の次の層をどう伸ばすかが重要で、永遠のテーマともいえる。
- ・動画を作ると、行事だけの紹介になってしまう。日々の授業や生活を、生徒自身の言葉で伝えることができればより効果的だと考える。
- ・動画は、誰に、何を伝えたいのかを明確にすることが重要。学校からの発信と、生徒からの発信の両輪で取り組んでほしい。元気な姿が見られてうれしいので、ぜひ継続をしてほしい。
- ・勤務に穴をあけないことが企業では最も大事だ。生徒にもぜひその観点を伝えていただきたい。
- ・自己評価は、分掌内と分掌外の評価の差をどう埋めるために、どう取り組んでいくのが重要だ。
- ・地域の子どもを共に育てるという視点で一緒にがんばっていきたい。
- ・本校もボランティアの組織を作ろうとしている。ぜひ連携して取り組んでいきたい。
- ・スマホの危険性など、小中高の保護者が共に学ぶことができればよいと思う。
- ・今後は高校での従来の授業形態に違和感を持つ生徒たちが入学してくるので、引き続き授業改善に取り組んでほしい。